

健康科学大学と富士河口湖町との 地域連携活動について（平成26年度）

健康科学大学地域連携推進委員会

坂本宏史 佐藤真一 瀧口綾
成田崇矢 新井雅加 藤智也

Collaborative activities of Health Science University with Fujikawaguchiko town in 2014

Committee for Regional alliances promotion of Health Science University
SAKAMOTO Hiroshi, SATO Shin-ichi, TAKIGUCHI Aya,
NARITA Takaya, ARAI Masaru and KATO Tomoya

抄 録

富士河口湖町と健康科学大学（本学）との「地域連携協定（平成22年3月24日締結）」に関連して、本年度（平成26年度）に行われた活動：本学教員が講師として地域住民に対して開いた「地域連携講座」、地元地域で学生が行ったボランティア活動、富士河口湖役場職員を講師として本学に招き開講された総合基礎科目「地域連携の理論と実際」について報告した。「地域連携講座」は、10月12日（日）と、11月15日（土）に、それぞれ大学文化祭（蒼麓祭）と富士河口湖町 町制祭の企画の一つとして行われた。学生が参加した最大規模のボランティア活動の町内清掃活動「ウォーク・クリーニング隊」は5月25日（日）と11月27日（木）に行われた。

キーワード：地域連携

包括的連携協定

ボランティアセンター

知的財産の共有

1) はじめに

今年5月、第2回の「拡大地域連携推進委員会」が開かれ、渡辺凱保 富士河口湖町町長と荒木 力 健康科学大学（本学）副学長をはじめ、連携事業に関わる各部署の代表が出席した。平成22年に締結された「包括連携協定」に基づいて行われた昨年度の活動の報告や、それぞれの課題に関連した具体的な連携事業についての意見交換が行われた。

この報告では、平成26年度に本学地域連携推進委員会が関わった活動をまとめ、前述した「地域連携協定」の目的に基づいて、到達度を総括した。

2) 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本事業は前述の「包括連携協定」を結ぶきっかけであり、本年度で6年目を迎える。平成26年度は、「健康」を共通のテーマとして全5回の講座が開かれた（表1）。

第1・2回は、理学療法学科 荒川聡美 助教が講師を務め、生活習慣病の概要や予防方法について解説を行い、第2回の後半には受講者も実際に体を動かしながら、生活習慣病に予防効果のある運動を紹介した（図1）。

第3回は、福祉心理学科 池谷 進 准教授による、精神的な健康についての講義が行われ、第4回は理学療法学科 金 信敬 教授が長寿時代を迎えた我が国において、より健康に長生きするコツを運動と食事の面から解説し、実践方法を紹介した。

3) ボランティアセンター

近隣地域の各種団体からのボランティアに関する情報をボランティアニュースとして、本学ボランティアセンター（当センター）登録者に発信する一方で、ボランティア活動の大切さを学生に伝えている。本年度のボランティア登録者数は304名（9月30日現在、表2）、ボランティアニュースもすでに63号発行している（10月29日現在）。

また今年度も、4月、当センター登録者、登録希望者を対象に「ボランティア登録者

表1 H 26年度 健康科学大学・富士河口湖町 地域連携講座 日程

回	日時	テーマ	場 所	講 師
1	10/12(日)	生活習慣病予防の運動、こまめに体を動かそう	本学講義室	荒川助教
2	10/12(日)	生活習慣病を予防するヒント —運動の実践—	同上	同上
3	11/15(土)	みんなで考えるメンタルヘルス	富士河口湖町勝山 ふれあいセンター	池谷准教授
4	11/15(土)	元気で100歳を迎えるための運動と食事	同上	金教授
5	11/15(土)	元気になる運動の紹介と実践	同上	同上



図1 10月12日本学で行われた第1・2回「富士河口湖町・健康科学大学 地域連携講座」の様子である。

表2 H26年 健康科学大学ボランティアセンター登録学生（名）

	理学療法学科	作業療法学科	福祉心理学科	3学科合計
1年生	18	30	14	62
2年生	47	18	15	80
3年生	36	34	29	99
4年生	9	31	23	63
計	110	113	81	304

のオリエンテーション」を行い、ボランティア活動の概要や、ボランティア活動保険制度の説明を行った。富士河口湖町内の活動に限らないが当センターを通して行ったボランティア参加人数（本年度上半期）を表3に示した。

昨年6月の富士山の世界文化遺産登録をきっかけに、本学の地元である富士河口湖地域も、多くの脚光を浴びることとなった。定期的に河口湖畔の清掃活動が行われ、清潔な環境が保たれている。この清掃活動に関しては、2010年3月に富士河口湖町と本学とで地域連携協定を締結して以来、本学学生と富士河口湖町役場職員、富士河口湖町民有志で構成される、ウォーク・クリーニング隊を年2回実施しており、本年度も、5月25日（日）と11月27日（大学の振り替え休日）に行った（図2）。

表3 H26 ボランティア活動者数(名)

4月	43
5月	57
6月	40
7月	35
8月	37
9月	23
計	235



図2 学生ボランティア活動、5月に行われた第1回「ウォーク・クリーニング隊」の様子である。

4) 地域連携の理論と実際

3年前に開講した本講義は、本学に地域行政の専門家である富士河口湖町の職員を講師に招いて、「行政全般」、「福祉」、「文化」、「健康増進」などにかかわる町の取り組みや課題を紹介してもらうものである。「包括連携協定」が結ばれたことによって開講される大変特色のあるものである。昨年度から総合基礎科目のひとつとなり、全学科の学生が広く受講できるようになった。今年度は4回の大学における講義(図3)、2回の試験農場における農作業体験(図4)を通して、特に興味をもった項目や課題について、



図3 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」の、本学における講義の様子である。



図4 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」の一環として行われた、農作業体験の様子である。

グループ単位で町役場職員や担当教員の指導を受けながら調査・研究を行い、最終的に研究発表会を行った。

5) 富士河口湖ボランティアネットワーク協議会

平成22年度に発足した本協議会（構成： 本学ボランティアセンター、富士河口湖町政策財政課、生涯学習課、社会福祉協議会、富士河口湖高校ボランティアサークル、河口湖畔教職員組合）は、本年度も月に一度、定例的に開催された。地域における、行政と大学、さらに小中学校が加わることによって生まれる連携の利点や可能性について、情報や意見の交換を行っている。

6) 考 察

富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

昨年度と同様、今年度も当講座を大学や町のイベントの一つとして開催した。第1・2回は本学文化祭（10月12日）、第2回は富士河口湖町の町制際（11月15日）の中で開催することになった。

これまで地域連携事業の柱の一つとしてこの企画を続けて来たが、講座のテーマの設定について、徐々に難しさを感じていた。今年度の講座は、原点に戻って、本学の名称の一部でもある「健康」を大きなテーマとして、本学教員の全員を対象に講師を募って開催された。細かいテーマは教員それぞれの専門性から個々に設定してもらった。今後も長く続けたいと考えている企画であるため、今回のようなテーマの設定の仕方が現時点では最良と思われる。

ボランティアセンター

専任として小山幸代 職員がセンターを担当して3年目を迎え、ボランティアセンターが、大変良好に機能するようになった。センター開設当初と比べ、ボランティアセンター登録者数（305名、平成26年10月末）、延べのボランティア参加者数（235名、平成26年10月末）の増加を見ても明らかである。軌道に乗った運営をこのまま維持していきたい。

地域連携の理論と実際

本講座は、福祉心理学科の専門基礎科目として開講（平成23年）したが、専門家を大学に招いて、地域行政について具体的に現場を知ることができる大変貴重な機会であるため、本学地域連携推進委員会で検討し、昨年度からは総合基礎科目として、本学のすべての学生が受講しやすくなった。また、学生に本講義の価値を理解してもらえるよう、履修ガイダンス時に説明を行った効果も加わり、今年度121名の履修申請があった。

ただし、本科目が後期（9月～1月）に開講すること、1年次の学生が多く履修すること、さらに1年次生は後期科目の履修申請を後期開始直前に変更できることから、履

修人数の把握が難しかった。結果として授業計画を開講直前に変更することとなり、関係する富士河口湖町、本学教務課に迷惑をかけることとなった。

科目の開講準備に当たり、今まで以上に連絡を密にすること、受講者数が多い場合や、少ない場合を想定して、それぞれに対応できる計画を立てておくことが必要と思われる。

富士河口湖ボランティアネットワーク協議会

連携事業の多くがこの協議会において計画されてきた。月に1度定例的に開催されるため、構成員同士の連絡も密に行え、各事業への迅速な対応も可能な体制となっている。

これまでの課題であった、本協議会の活動を大学や町役場に広く伝えることも、年度初頭に「拡大地域連携推進委員会」を開催することで解決されると考えている。

参考文献

地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割，健康科学大学紀要 Vol. 7, 35-49, 2011.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成23年度）健康科学大学紀要 Vol. 8, 129-138, 2012.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成24年度）健康科学大学紀要 Vol. 9, 105-112, 2013.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成25年度）健康科学大学紀要 Vol. 10, 119-126, 2014.

Abstract

The current study reviews collaborative activities of the Health Science University and the town of Fujikawaguchiko, held in 2014. It also evaluates the degree of achievement of the goals set by the “Agreement on Community Collaboration.” In terms of the “Co-ownership Intellectual Property” listed in the agreement, lectures aimed at community members were organized by university professors on October 12 and November 15, as events of the University festival and the town organization festival, respectively. Meanwhile, governmental officers in the community provided lectures for the university students. Volunteer activities by the university students, such as “Health Science University Walk Cleaning Troops,” were carried out actively and efficiently through the “University Volunteer Center.”

Keywords : community collaboration
agreement on community collaboration
volunteer center
co-ownership of intellectual property